

静岡県立自然系博物館整備に関する経緯

| | |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 通玄 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00025218 |

静岡県立自然系博物館整備に関する経緯

伊藤 通 玄*

本会を含む自然系民間研究団体から要望書・提案書が出されていた「県立自然系博物館の整備」が、静岡県の「新世紀創造計画」の学術・文化振興プログラムの重点施策・事業のひとつとして位置づけられ、96年度予算に構想調査費1,000万円が計上される運びとなったので、本会が関わったこの間の経緯を要約して報告し、今後の取り組みや博物館構想についての積極的な提案・支援・協力をお願いしたい。

(1) 第103回運営委員会(1994年8月30日)において、西部支部合同巡検会(豊橋市自然史博物館ほか)および「たいら地学同好会」との合同巡検会(アンモナイトセンター・いわき石炭化石館ほか)の報告などに関連して、本県にも自然史系の博物館を早期に建設する必要があると、本会としても県当局に要望する必要があるとの提案があった。そこで、これまでの検討資料等を参考にして、第104回運営委員会(1994年11月20日)で要望書(案)を検討し、第105回運営委員会(1995年4月)でさらに検討することにした。

(2) 1995年2月15日付けで静岡植物同好会の伊藤二郎氏(静大名誉教授)より、県立自然史博物館設立発起人会に地学会としても協力願いたい旨の要請があり、生物系民間研究団体代表で構成された第1回発起人会(1995年3月16日)にオブザーバーとして出席した。この発起人会において、要望書原案および自然史関係団体一覧表の検討、協力委員約60名を委嘱することが了承された。なお、地学会としては、すでに独自の要望書案を検討中であり、第104回運営委員会(1995年4月8日)の討議を踏まえて対処することを表明した。

(3) 第104回運営委員会(1995年4月8日)において、前記発起人会原案(静岡県中心の自然史博物館構想)の概要を紹介し、継続審議中の本会独自の要望書案(グローバルな視点を持った総合博物館構想)と比較検討した結果、静岡県にとどまらないグローバルな視点を持ち、情報ネットワークで結ばれたマルチメディア型・体験型博物館(中核館とテーマ館で構成)として協議が整えば、発起人会に加わり、協力するという方向性を確認した。

(4) 1995年4月22日、第1回協力委員総会(静岡県教育会館)が開催され、本会役員・支部長・事務局代表を含む協力委員名簿・要望書(案)が配布され、様々な意見の表明があった。本会としては、前記運営委員会の意向を極力要望書に盛り込むよう要望したが、必ずしも十分な調整がなされず不満が残った。ただし、次回提案書にその意向を盛り込むことを条件に要望書(案)を了承し、発起人会に加わることにした。

(5) 1995年5月11日、発起人会代表8名中6名と柴順三郎県企画部長、奥田・原田企画部次長、渡辺企画課長・小林主査ほかと懇談し、静岡県立自然史博物館に関する要望書(6p)及びその解説(12p)を提出した。

* 静岡県地学会会長

(6) 1995年6月29日、本会の運営委員会での討議結果を大幅に盛り込んだ県立自然史博物館に関する提案書(12p)を企画部を通じ、県知事宛てに提出した。その一部を資料1として本文末尾に紹介するので、ご意見や要望をお寄せ頂きたい。

(7) 1995年8月12日、発起人有志ほか9名で神奈川県立生命の星・地球博物館を訪問し、本間副館長・松島学芸部長・白岩管理課長の概要説明ののち、管理・サービス部門、研究・技術部門、展示・教育部門、収蔵・保管部門などについて見学および現場説明を受け、懇談した。

(8) 1995年11月11日、移動知事室「さわやか緑陰フォーラム」(静岡市民文化会館)において、伊藤二郎代表の意見表明(自然系博物館の早期建設の必要性)に対し、自然系博物館の整備を「新世紀創造計画」に盛り込む予定であるとの知事発言があった。

(9) 1995年12月2日、第2回協力委員総会(静岡商工会議所会館)が開催され、第1回総会以降の経過報告が行われ、「神奈川県立生命の星・地球博物館設立までの40年」と題する同館学芸部長松島義章博士の講演が行われ、大変参考になった(参加者約50名)。

(10) 1996年2月28日、静岡県植物研究会の総会のおり、同会主催・静岡県立自然史博物館設立発起人会ほか10団体共催で「自然史博物館の役割」と題する大場達之博士(元千葉県立中央博物館副館長)の有益な講演があった(参加者約150名)。

(11) 1996年1月27日、静岡県立自然史博物館設立発起人会を会費制の設立推進協議会に発展させることを確認し、協力委員にその経緯と入会要請を行うことにした。(2月1日付けで経過報告・要請文書、会費振替用紙を発送した。)

(12) 1996年3月2日、設立推進協議会の実行委員(従来の発起人)で協議し、総会を5月12日(日)に開催し、自然史博物館に関する記念講演ののち、これまでの経過報告、規約案・活動計画案等の審議を行うことにした。

(13) 1996年3月28日(木)、新年度より静岡県出納長に就任予定の柴企画部長にこれまでの県政への貢献に感謝するとともに、博物館の早期設立を要望する新たな知事宛要望書(資料2 先進3館の比較表のほか、設立の経緯、特徴を含む)を提出し、企画部長・課長・主査ほかと懇談した。県としては「新年度予算で構想調査費がついたので、内外の自然系博物館の調査を進めたい。今後も参考になる情報を提供して欲しい」とのことであった。

(14) 1996年4月14日(日)、自然系博物館設立推進協議会の実行委員ほか16名で茨城県自然博物館(岩井市に1994年11月開館)を訪問し、小井戸克美副館長・舟橋正隆資料課長の概要説明ののち、展示・教育部門、研究・調査部門、収蔵・保管部門のほか、屋外施設(花の谷・昆虫の森・トンボの池・夢の広場・自然発見工房など)を見学し、現場説明を受け懇談した。

参考資料1 1995年7月提案書で提示した「提案の趣旨」と「静岡県立自然史博物館構想(案)」

参考資料2 1996年4月の要望書に添付した「先進3県の自然系博物館の比較表」

資料1 1995年7月提案書で提示した「提案の趣旨」と構想(案)

1. 提案の趣旨

先般の要望書でも述べましたように、本県内には大小あわせて約150館の博物館がありますが、自然史博物館は東海大学自然史博物館のみという憂慮すべき状況にあります。

こうした著しく文化的均衡を欠く状況を打破し、世界的にみても極めて特殊な位置を占める本県の「多様で豊かな自然」の歴史と現状を国の内外に向けて情報発信するとともに、様々な試練に見舞われながらも多様な生命を育み続けてきた地球および地域の環境が今後も維持されるために、人類がなすべきことは何かをアピールできるような自然史博物館が設立されることを、私たちは強く要望しています。

本県に神奈川県立「生命の星・地球博物館」あるいは千葉県立「中央博物館」に匹敵する自然史博物館が設立されれば、新世紀創造計画(中間素案)にうたわれている「自然を生かす美しい県土の創造」、「生涯にわたる学習環境の整備」、「香り高い文化の創出」などを含む以下の諸点に大きく寄与できるものと確信します。

1. 自然を生かす美しい県土の創造など、地球および地球環境の保全や改善・復元は21世紀を間近かにした人類共通の緊急課題であるが、自然史博物館の設立はこれらの課題に取り組む個人や団体の活動・交流の拠点として、また様々な環境情報の交換の場として活用され、環境政策の策定・推進にも大きく寄与できる。
2. 博物館スタッフおよび支援団体により収集・整理・加工された様々なレベル・様式の学術資料・標本などを体系的に展示することにより、生涯学習施設として県内外の人々に活用され、県土の自然的特性やその地球上での位置づけ、多種多様な生物を含む自然環境と人間との関わりを理解でき、県土の保全や創造、地球環境の改善に寄与できる。
3. 博物館スタッフおよび支援団体により収集・整理・加工された様々なレベルの学術資料・標本などを教育的配慮のもとに計画的に展示したり、実物を用いた体験学習を経験することにより、青少年の自主的学習が促進され、自然への興味・関心が深まり、豊かな情操を培うことができ、青少年の「理科離れ」や「非科学志向」を改善できる。
4. 国際化が急速に進む21世紀に向けて、本県を訪れる諸外国の客人に対し、本県の多様な自然の生い立ちや現状を分かりやすく紹介でき、マルチ・メディア化された諸情報を国際情報網で結ぶことにより、世界に向けて多彩な県土情報の発信ができ、国際的な知的交流の推進に貢献できる。
5. 民間篤学者等が、永年に亘り収集・蓄積した貴重な資料・標本等を一括保管することによりその散逸を防ぎ、天災・人災からそれらの自然遺産を守ることができ、これらの資料・標本等を計画的に整理・加工・展示・解説することにより、貴重な自然遺産を万人の共有財産とすることができる。
6. 自然史博物館の設立により、自然史関係の有能・多彩な専門家(学芸員・普及員等)がその力量を十二分に発揮できる場が与えられ、その分野の中核的研究・教育機関として機能でき、国内はもとより、海外の研究機関・学術団体との情報交換・交流を通じ、学術研究の発展に大きく寄

与することができる。

上記のような貢献・寄与を確かなものとするためには、以下のような配慮が必要と思われます。

- (1) 活動内容の企画・立案、情報収集・情報加工、調査・研究、施設の整備・運営等に関わる有能・多彩な専門家を十分に確保する。
- (2) 県内の貴重な自然遺産に関する既存情報の収集と加工（データベース化）とともに、重要な自然遺産（タイプスペシメン等）の保全・保存・保管の万全を図る。
- (3) 調査・研究活動の成果がデータベース化され、情報ネットワークで結ばれ、的確・迅速に利用者に提供できるようにする。
- (4) 調査・研究活動の成果をマルチ・メディア（文字・音声・映像等）化し、知的娯楽性に配慮した参加・交流・体験型展示及び普及活動に反映させる。
- (5) 国内外からの多様な来館者をはじめ、運営を支援する各種団体・個人にとって利用しやすい施設整備（設置場所・構造・機能・付属施設等）をめざす。

自然史博物館の設立計画の具体化に当たっては知事部局をはじめ、幅広い部局の関係者が一体となって、設立準備委員会を組織することが肝要と思われます。私たち発起人一同も必要に応じ、学識経験者等による専門委員会を組織し、静岡県民はもとより、県外・海外からのビジターにも愛され親しまれる博物館の実現のため、必要と思われる提言や可能な支援を惜しまない所存です。

2. 静岡県立自然史博物館の構想（案）

A. 基本構想

1. 中核館

(1) 基本テーマ「東西のフロンティア静岡」

本県の中・西部はユーラシア（アムール）プレートの東縁、本県の東部はフィリピン海プレートおよび北米（オホーツク海）プレートの境界域に属し、まさに東西のフロンティア（境界域）に当たる活発な地殻変動地帯である。この活発な地殻変動の結果生じた多様な地形・地質・気候・土壌条件のなかで、多様な動植物が生活し、人類との共生が求められている。

(2) 対象範囲

* 地球環境の変遷

（地球の誕生、大気・海洋の変遷、大陸の出現と変遷）

* 地球環境と生命

（原始生命の誕生、海生生物の進化、陸生生物の進化）

* 地球生命の営み

（進化、適応、繁殖、寄生と共生、擬態、移動）

* 地球上の日本列島

（亜熱帯～寒帯、活発な地殻変動、多様な生物環境）

* 静岡県の自然特性

(プレートの境界、東西日本の接点、多様な生物環境)

* 静岡県の生物特性

(特産種、絶滅危惧種、帰化生物、生態圏の変化)

(3) 常勤職員の構成・概数

* 事務職員 約10名

庶務、経理、保守、管理、福利厚生、総合調整など

* 専門職員 約10名

資料・情報の整理・保存・加工・調整・展示・普及・教育など

* 研究職員 約30名

地形・地質、岩石・鉱物・土壌、大気、河川・湖沼、海洋、地殻変動、古生物、菌類、地衣類、藻類、コケ植物、シダ植物、裸子植物、被子植物、植物生態、無脊椎動物、魚類、両棲類、爬虫類、鳥類、哺乳類、動物生態など

2. 付属生態園および野生鳥獣保護センター

(1) 付属生態園

従来の動物園とか植物園はそれぞれ別個の存在であり、自然史博物館とは一線を画された存在であった。しかし、新しい世紀に向けては博物館内で単に剥製等を展示するだけでなく、生きた動植物の展示も必要となる。そこで、室内展示として県内の貴重な水生昆虫、淡水魚類、両棲類、爬虫類、鳥類、哺乳類、さらに可能ならば軟体動物なども生態的に飼育展示し、実物を用いた展示教育をするとともに、隣接する付属生態園に「トンボやメダカの池」・「ホタルの川」・「野鳥を呼ぶ林」などを作り、自然生態の復元モデルとする。

なお、各種の鉱物の集合である岩石や地層、それらが風化して生物活動の影響を受けて生じた各種の土壌構造なども生態園内に位置付け、地形・地質・気候・水理と土壌および生物の関わりが理解できるようにしたい。このような新概念の「生態圏」を付置して体験学習の場とすることが必要である。

(2) 野生鳥獣保護センター

自然環境の汚染、悪化、破壊などによる野生鳥獣の負傷が近年急増しており、それらを保護治療する機関もパンク状態である。さらに、治癒しても放野できない鳥獣も多く、上記の生態園での飼育展示も含めて、鳥獣保護センターが必要である。

(3) 常勤職員の構成、概数

* 事務及び技術職員 約5名

庶務、保守管理など。中核館と兼務も可。

* 専門職員 約15名

獣医、飼育、植栽管理、展示、普及、教育など。

3. テーマ館

全県的な施設整備の観点から、関連施設への併設、既設施設の再整備などを検討しつつ、中核館(中部)と情報ネットワーク化して全県的な情報の充実をはかる。

テーマ館のテーマおよび設置希望場所は以下のようである。

- (1) 「富士山」：東名HW御殿場 I C～富士 I C 周辺
(富士火山の生い立ち、生物相、地域特性)
- (2) 「伊豆半島」：伊豆スカイライン、または伊豆中央道沿い
(伊豆半島の生い立ち、生物相、地域特性)
- (3) 「赤石山地と牧の原」：東名牧の原 I C～静岡空港周辺
(赤石山地と牧の原の生い立ち、生物相、地域特性)
- (4) 「浜名湖とその周辺」：東名浜松西 I C～館山寺周辺、または弁天島周辺
(浜名湖周辺の生い立ち、生物相、地域特性)

資料 2 1996 年 4 月要望書に添付した「先進 3 県の自然系博物館」比較表

| 名 称 | 千葉県中央博 | 茨城県自然博 | 神奈川県地球博 |
|------------------------|----------|-------------|------------|
| 敷地面積 (m ²) | 79,000 | 164,000 | 42,000 |
| 建築面積 (m ²) | 7,000 | 7,000 | 8,200 |
| 延床面積 (m ²) | 15,300 | 12,000 | 14,200 |
| 管理・サービス部門 | 2,700 | 3,000 | 5,100 |
| 研究・技術部門 | 1,700 | 500 | 800 |
| 収蔵・保管部門 | 4,200 | 1,200 | 1,400 |
| 展示・教育部門 | 4,900 | 5,000 | 5,900 |
| その他共用部分 | 1,800 | 2,000 | 1,000 |
| 経費総額 (億円) | 93 | 189 | 235 |
| 用地取得造成費 | 13 | 13 | 44 |
| 建築設計工事費 | 49 | 121 | 123 |
| 展示設計工事費 | 14 | 45 | 43 |
| 資料調査収集費 | 1 | | |
| 展示資料整備費 | 7 | 10 | 24 |
| 備品費など | 9 | | 1 |
| 館員総数(非常勤を含む) | 92 | 50 | 44 |
| 館長(非常勤) | 1 | 1 | 1 |
| 副館長 | 2 | 1 | 1 |
| 管理・経理 | 8 | 5 | 9 |
| 企画・普及 | 9 | 5 | 6 |
| 情報・資料 | | 11 | 6 |
| 学芸・教育 | 54 | 6 | 13 |
| 展示・解説(非常勤) | 18 | 21 | 8 |
| 開館年月 | 平成元年 2 月 | 平成 6 年 11 月 | 平成 7 年 3 月 |